

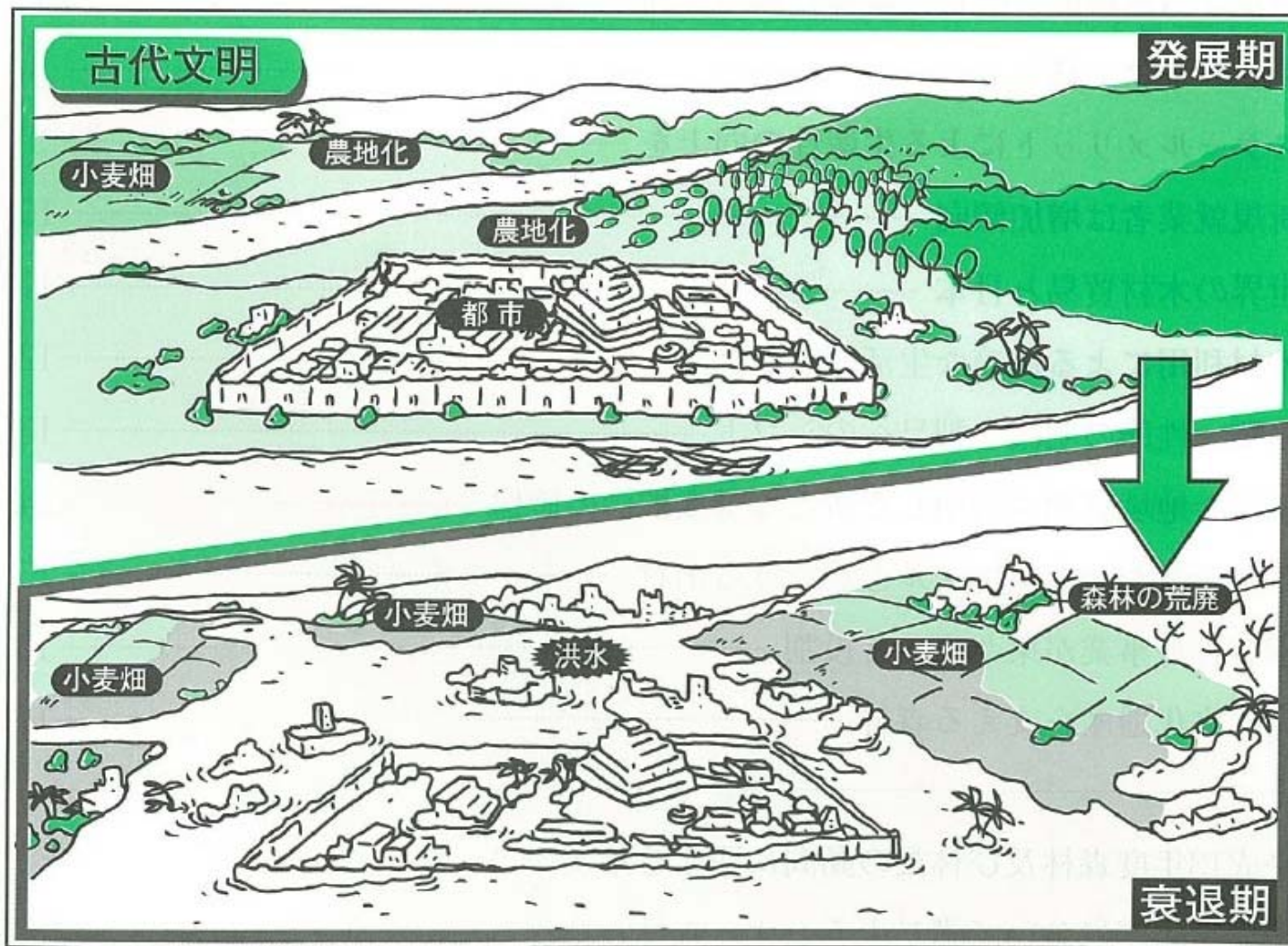


資料1

平成22年12月16日 第1回国際森林年国内委員会

なぜ今、国際森林年なのか

古代文明の発展と衰退のイメージ

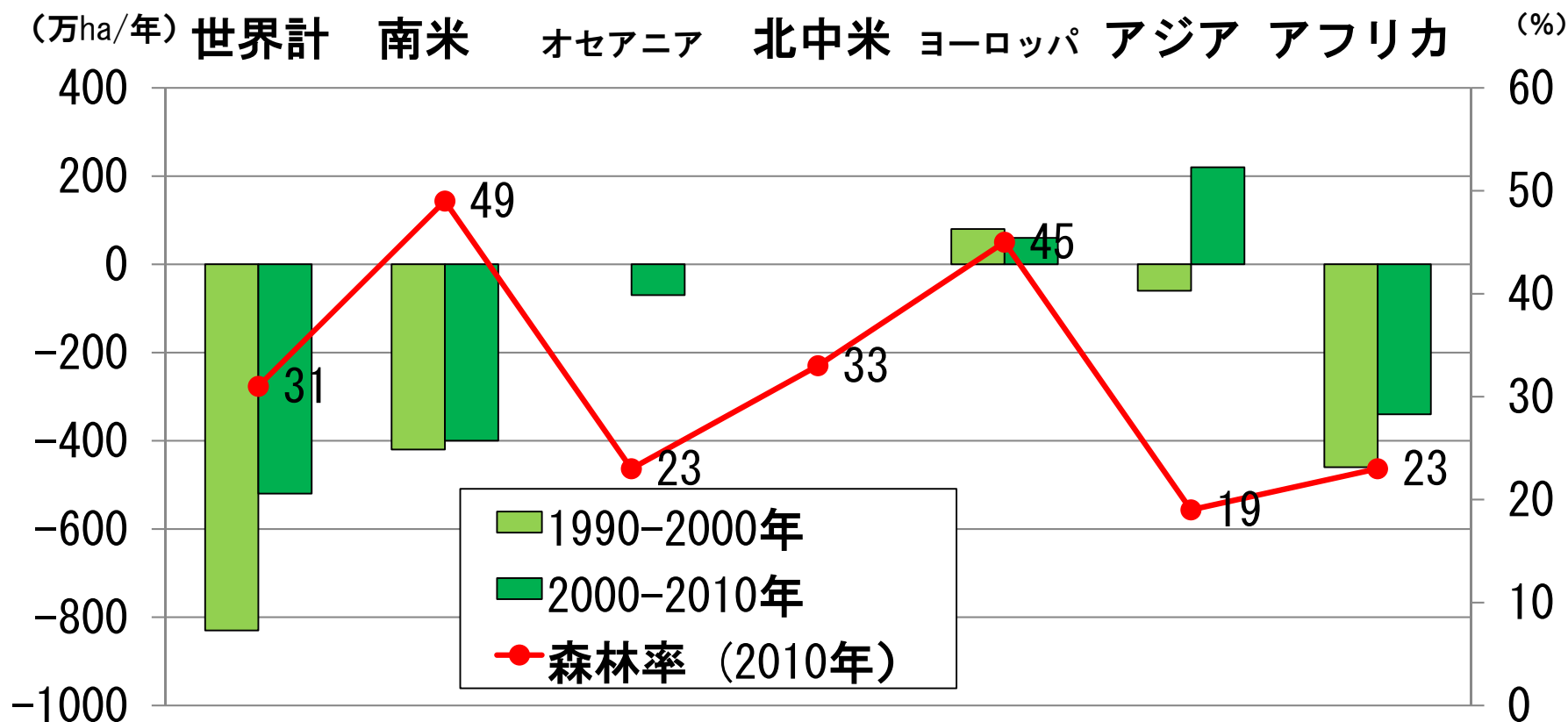




リオの地球サミット（1992年）

- × 1972年、国連人間環境会議（ストックホルム会議）
- × 1992年、国連環境開発会議（UNCED、リオの地球サミット）
 - + 「リオ宣言」とその行動計画である「アジェンダ21」とともに「森林原則声明」を採択。
 - + 気候変動枠組条約、生物多様性条約、砂漠化防止条約を署名のために開放。
- × 2010年は国際生物多様性年、2011年は国際森林年、そして2012年は「Rio+20」の年。

世界の森林面積変化と森林率（地域別）

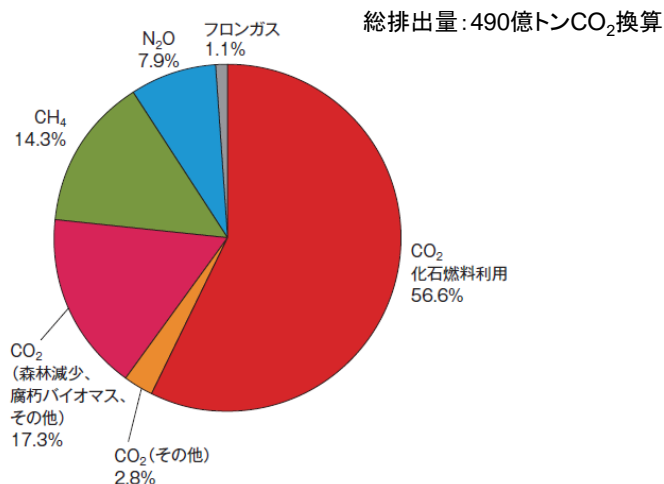


資料：FAO「世界森林資源評価 2010」

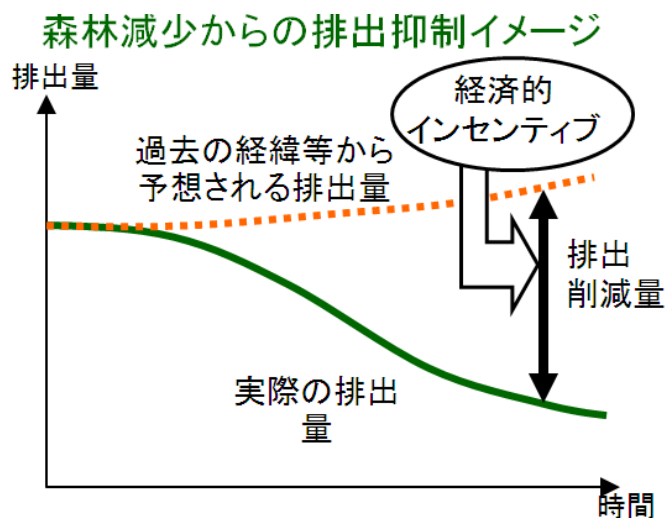
1990年～2010年間の間の世界の森林減少は、我が国の国土の約4倍

森林の減少・劣化に由来する排出の削減（REDD+）

2004年の世界の温室効果ガス排出量（IPCC）



- × 途上国の森林減少に由来する排出量は世界の温室効果ガス排出量の約2割。
- × 京都議定書では、この問題は対象外。
- × 「森林の減少・劣化に由来する排出の削減（REDD+）」を次期枠組み交渉に組み込む方向で交渉中。

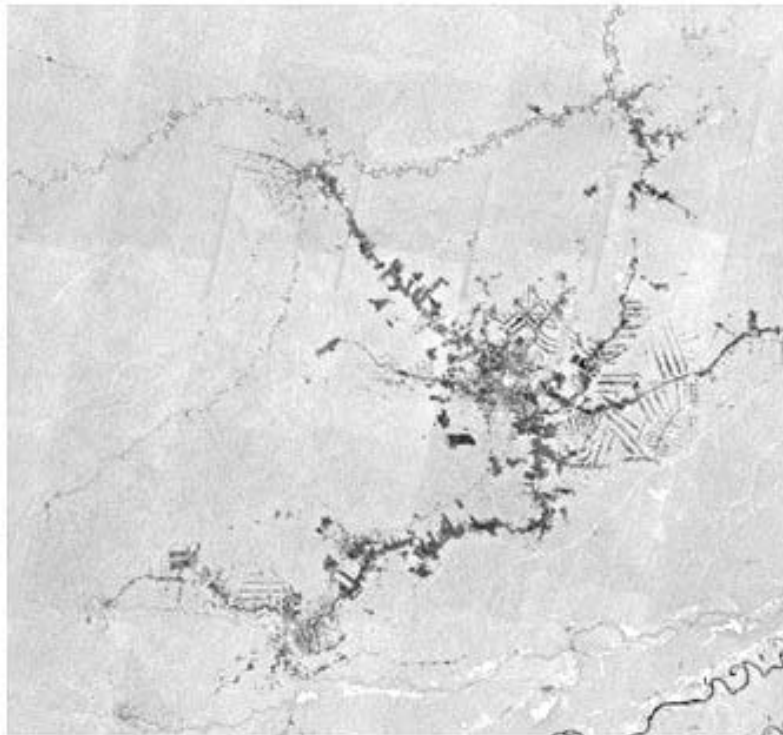


ブラジル・ Rondônia地方の森林伐採 (例)

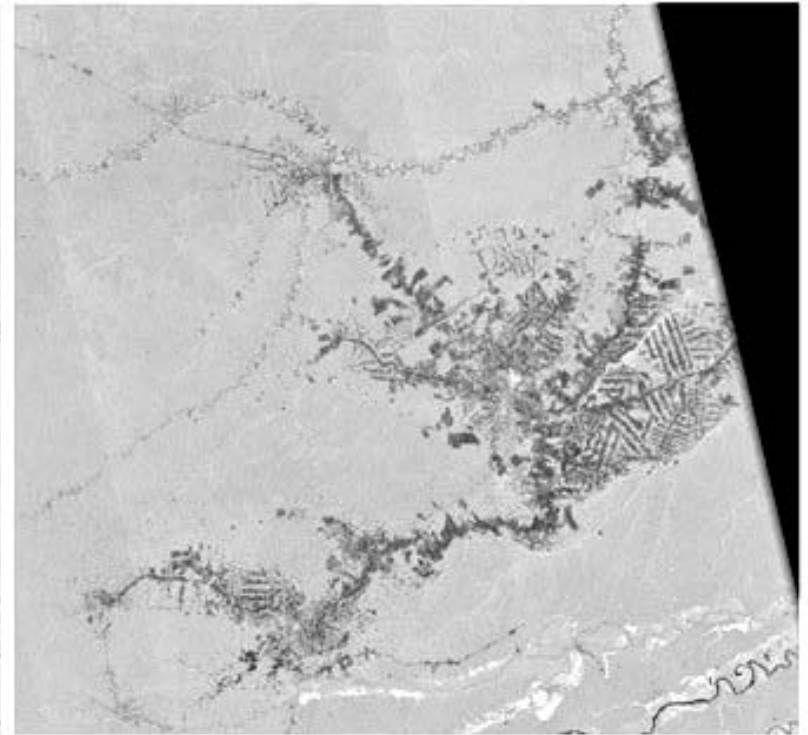


1995年

2006年



JERS (Sep/Dec, 1995, pixel spacing=100m)



PALSAR (2006, pixel spacing=50m)

Mode : FBS41.5[deg]
Polarization : HH
Map projection : Mercator



生物多様性保全への関心

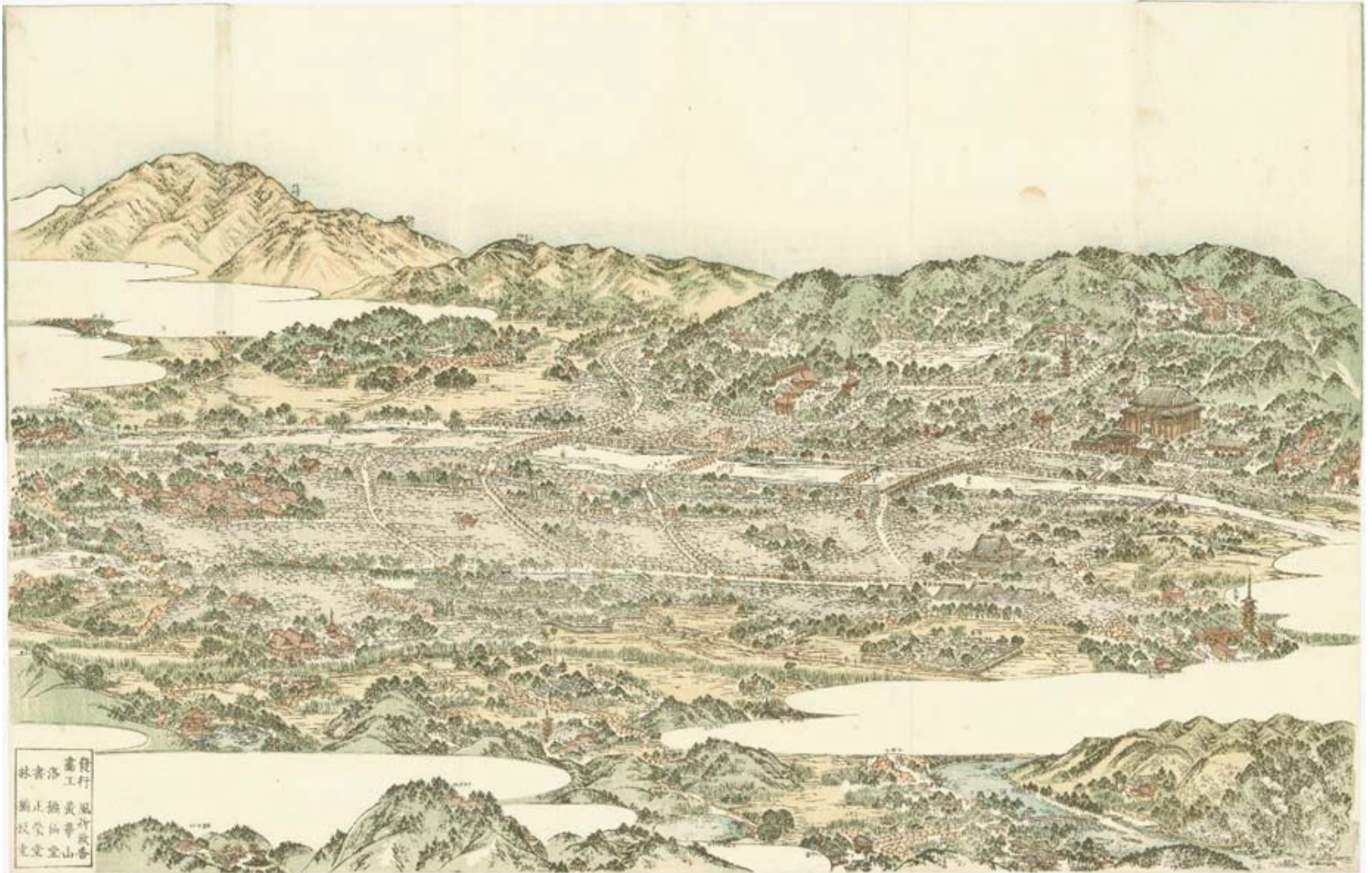


- × 生物多様性条約COP10において、保護地域設定の目標値として陸域17%、海域10%に合意。
- × アクセスと利益配分（ABS）が議論される遺伝資源は、相当部分が熱帯林に存在。
- × 人為の入った二次的な自然を重視する「SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ」の発足。

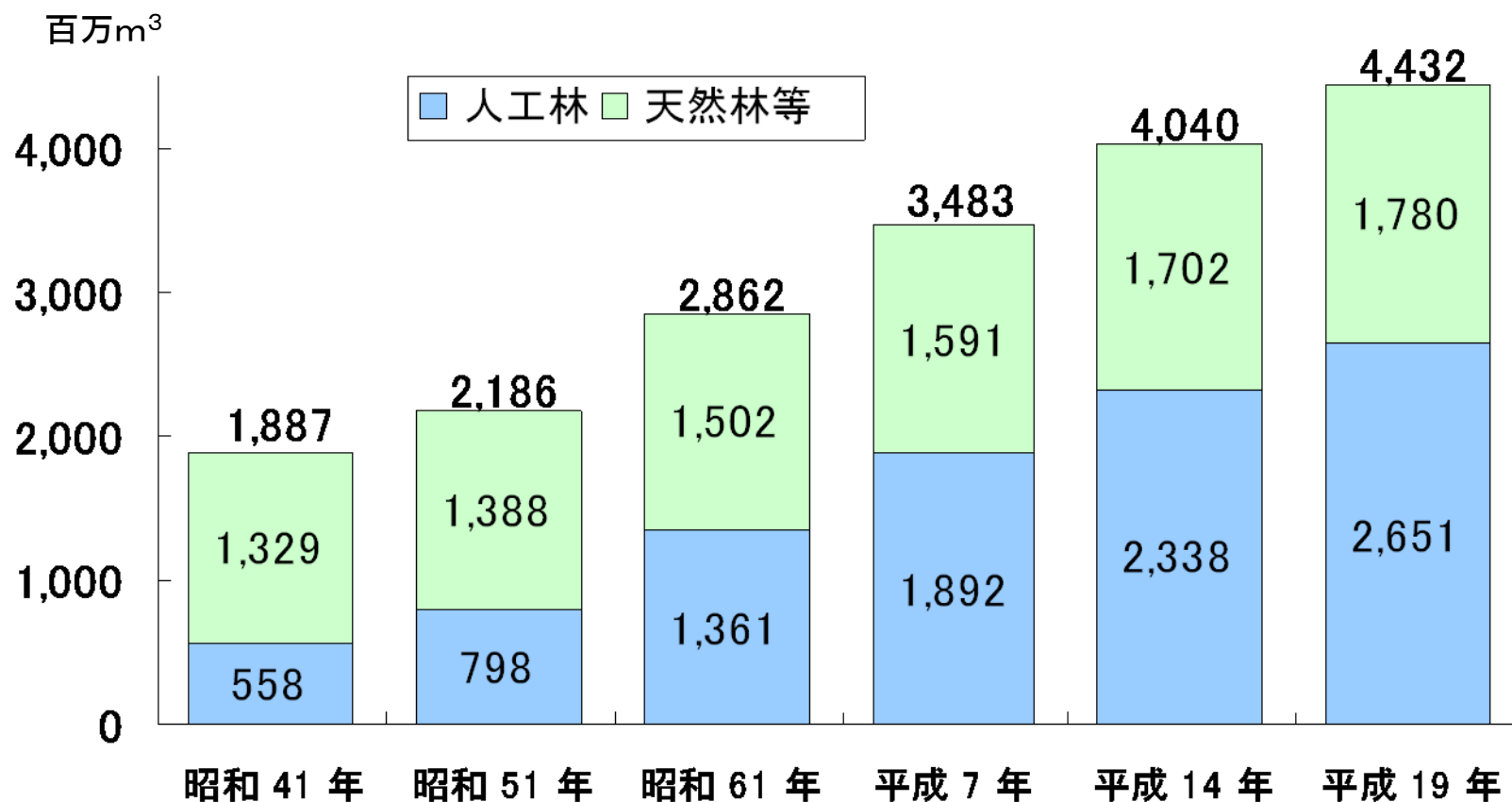


我が国では

江戸末期の京都近郊の絵図（1808年刊行）

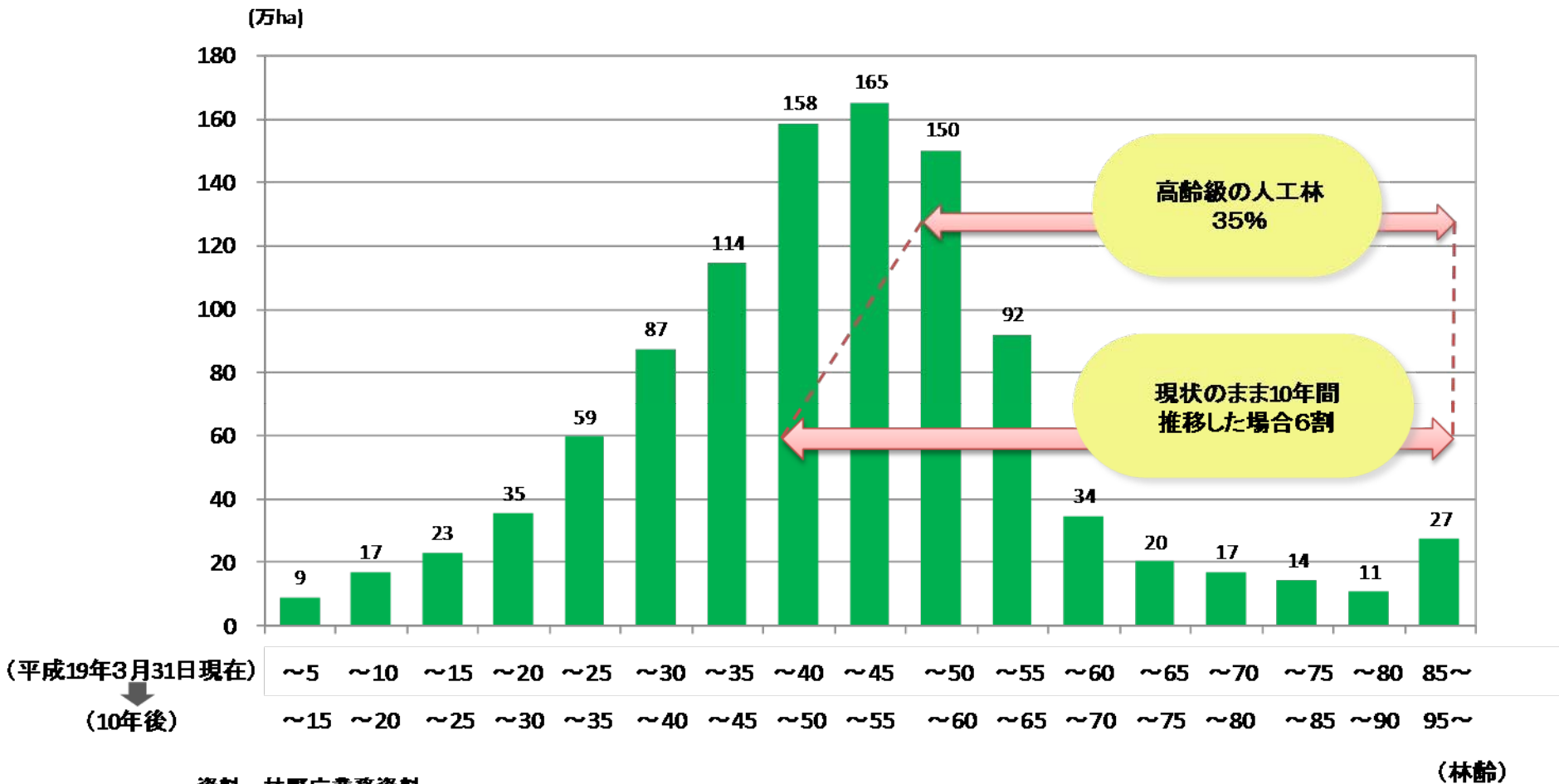


我が国の森林資源の推移



資料: 林野庁業務資料

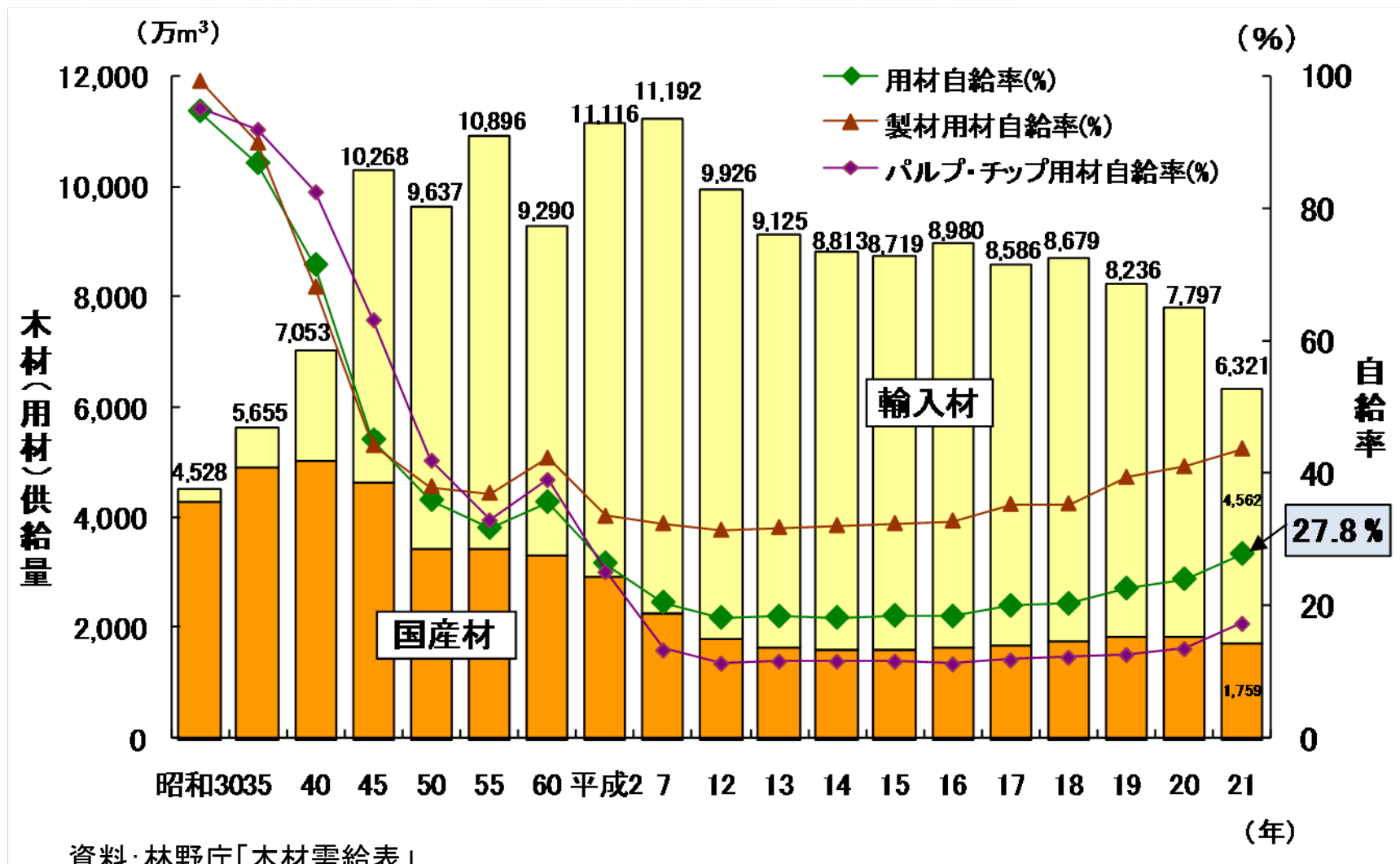
人工林の齢級別面積



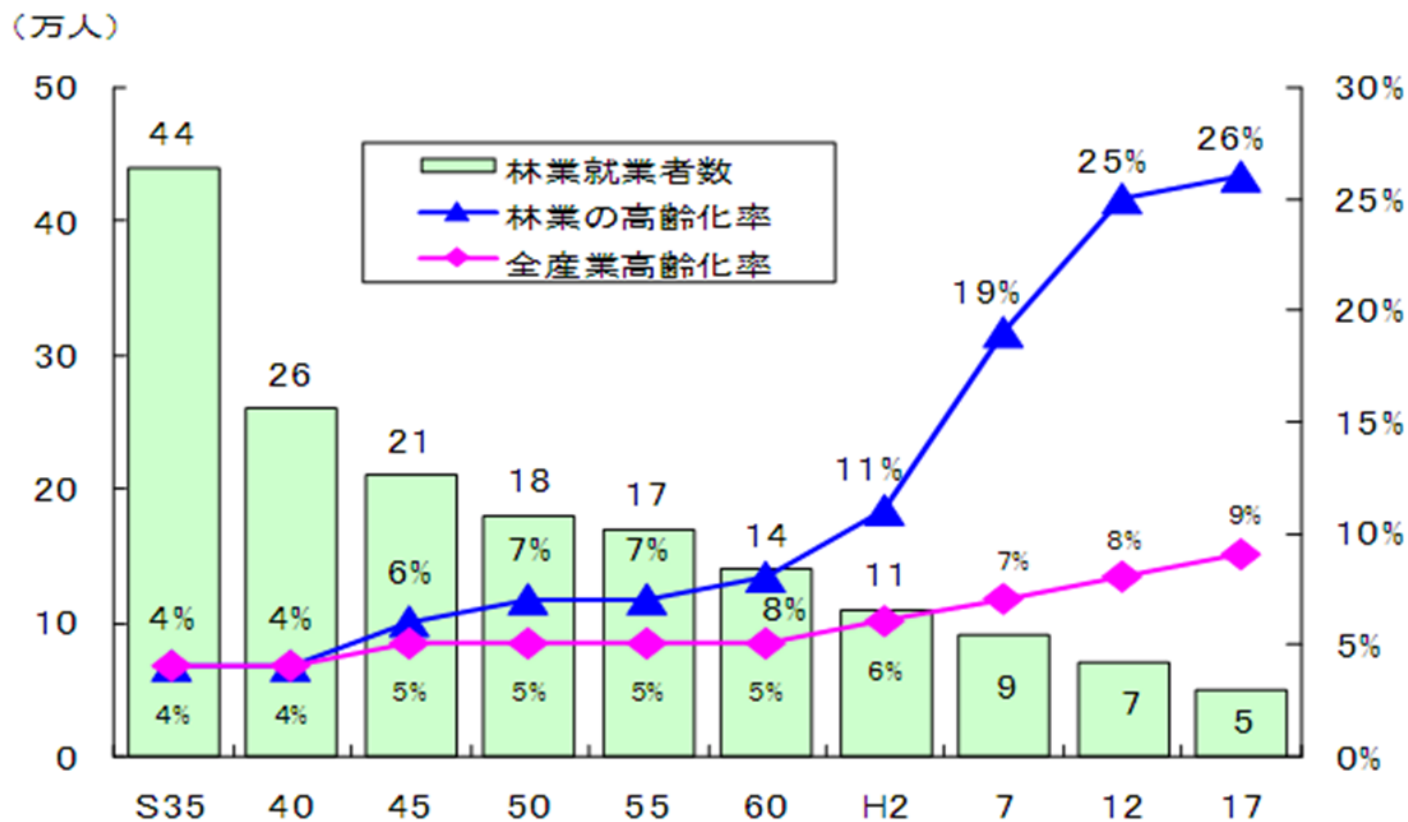
資料：林野庁業務資料

注：森林法第5条及び第7条の2に基づく森林計画の対象となる森林の面積である。(平成19年3月31日現在)

木材（用材）の供給量の推移



林業就業者数、高齢化率の推移



資料:総務省「国勢調査」

注:高齢化率は、総数に占める65歳以上の比率



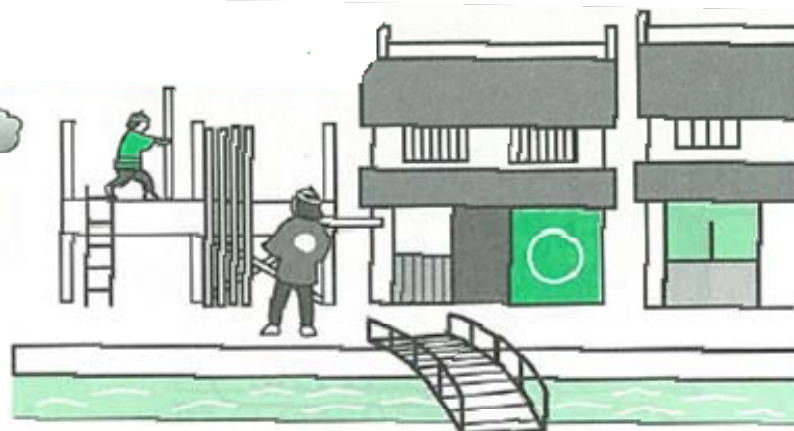
「持続可能な森林経営」とは

- × 「全てのタイプの森林に関する法的拘束力を伴わない文書」における定義。
 - + 「持続可能な森林経営」は、現在及び将来の世代の便益のため、森林の経済的、社会的及び環境側面の価値を維持・強化することを狙いとす
- × 我が国の森林・林業は真に持続可能と言えるのか？

我が国の歴史的な森林利用



燃料、肥料などに利用



大きな都市がつけられ住居用資材が増加



薪や落葉を採取する量などを自主的に制限



例えば20年生の樹木を利用する場合、
毎年20分の1の区画を伐採

国際森林年を契機として、



もう一度、国民と森林を結びつけられないか。

森林・林業再生元年として弾みをつけられないか。

世界の森林の持続可能な経営に貢献できないか。

森林に新しい価値を見出すことができないか。

林業と建設業の共働による森林づくり の現地研修（岐阜県飛騨地方）



学校施設における木材利用（栃木県茂 木町）



新たな芽①

木質バイオマス利用ボイラーを導入した養鰻場（鹿児島県肝付町）



山村資源を活かす「森のようちえん」（鳥取県智頭町）



新たな芽②

小笠原諸島における固有森林生態系修復の取組（関東森林管理局）



個体数調整や食肉利用によるエゾシカ被害対策の推進（北海道森林管理局）



新たな芽③